

多文化関係学会 2023年度 第3回理事会
議事要旨

日時：2024年3月23日（土）13:00～15:10

場所：立教大学池袋キャンパス 6号館 6206+zoom

出席：石井、石黒、岡部、奥西、笠原、坂井、申、渋谷、趙、灘光、矢元、叶、横溝

欠席（委任状）：伊藤、小林、猿橋、李

議事に先立ち、笠原会長より挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 事務局（石井）

- ・2023年3月現在の会員数246名（一般200、学生41、シニア5名）
- ・新システム移行中だが、104名が未登録になっている。そのうちメールアドレス未登録者15名。
- ・メールアドレス登録済みでもMLの送信に失敗しているメールアドレスが20件あるため、今後対応する。

(2) 財務委員会（申）

- ・3月末日で2023年度の会計を締めるので、経費精算忘れに注意のこと。
- ・今年度年次大会の会場利用に関わる支援金（30万円）が学会の口座に振り込まれたため、大会用の口座に移動する。
- ・4月に次年度の予算案を作成するので、各委員会予算については要望を早めに連絡してほしい。
 - CHA会の項目を新たに立てる。
 - 地区研究会の外部講師の謝金上限は3万円。その範囲に収まれば複数名に講演依頼することも可（例えば、1.5万円×2人）。

(3) 地区研究会委員会

[関東（叶）] 今年度2回目の研究会をハイブリッド方式で開催する（3月23日15:30～17:00、講師：角山朋子先生[神奈川大学]）。

[関西中部（矢元）] 研究会を11月25日にオンラインで開催した（講師：高畑幸先生[静岡県立大学]、詳細はNLの報告を参照のこと）。来年度については、未定だがこれから検討していく。

[中国四国（趙）] 研究会を11月11日にオンラインで開催した（講師：羽瀨由子先生[周南公立大学]、詳細はNLの報告を参照のこと）。現在、来年度の企画について検討しており、内容が決まり次第報告したい。

[九州（小林@メール）] 研究会を2月18日にハイブリッド（九州大学+Zoom）で開催した。詳細は次号NLで報告予定。

(4) 学術委員会（岡部）

- ・特定課題研究の募集をしたが、応募なし。制度設計の見直しを学術委員会内で行い、提案を次回理事会に提出したい。
- ・2024年2月16日に第1回リサーチ・ワークショップを開催した（テーマ：対話的な自己エスノグラフィを体験しよう！ 講師：沖潮満里子先生[青山学院大学]）。参加者は全国から12名、5時間に及ぶセッションとなった。第2回は6月頃に、第3回は年次大会時に開催を予定する。第2回のテーマは定量的アプローチとする予定。シングルケースデザイン、バイズ統計、質的比較分析なども検討中、第3回は構成主義版グラウンデッド・セオリーなどを検討している。
- ・委員の変更があり、河野秀樹先生（目白大学）が2023年度限りで退任、當銘美菜先生（目白大学）、姚瑶先生（芸術文化観光専門職大学）が2024年度より新たに委員に着任する。ただし委員長、委員、いずれの人材確保が難しく危機感をもっている。加えて、委員の任期については決まりがたいため、任期について検討する必要がある。
- ・（学術委員会の活動とは別活動だが、学会学術活動の新たな展開の報告として）2024年3月16日にCHA会を開催し（於：神田外語学院・神田キャンパス）、9名が参加した。今後も引き続き、CHA会の開催を計画していく。

(5) 学会誌編集委員会（奥西）

- ・Vol. 20は、論文1本、書評2本掲載で発行、印刷は280部。当初、1月中の発送を予定していたが、会員システムの移行によって学会費未納者が多数確認されたため、新システムへの登録案内を同封することにし、3月15日に発送を完了した。（※事務局補足：メール未登録者に対しては、レターパックで同様の内容物を3月中に発送予定）
- ・インターブックスからの要請があり、発送方法が今回からゆうメール（1通160円）に変更となった。届くまでに2週間程度かかる場合もある。

(6) Web管理・広報委員会（横溝）

- ・システム移行に伴い、メーリングリストが会員全員に届いているかが懸念事項。今後もしばらく事務局と連携して対応していく。
- ・学会のウェブサイトについて、各コンテンツのリンク等の整理・調整が必要な状態になっているので、バージョンの見直しも含めて来年度に作業を進めたい。
- ・旧システム（VPSサーバー、ドメイン利用料）の解約については、詳細を事務局（執行部）で確認した上で対応することにする。

(7) ニュースレター委員会（坂井）

- ・2月にNL44号を発行済み。
- ・45号は、6月初旬に発行を予定する。すでに原稿執筆者には依頼メールを送付済み（原稿締め切りは5月7日）。

(8) その他

- ・次年度の大会運営委員会が発足したとの報告があった。

2. 審議事項

(1) アジア太平洋多文化協働センター設立構想への賛同について（笠原）

資料1に基づき、笠原会長より提案の内容について説明がなされた。審議の結果、理事会として総会で発議することが了承された。

(2) 日本学術振興会の表彰者推薦について（石井）

今回は該当者なしであることを確認した。

(3) インボイス対応および源泉徴収について（申）

インボイス制度導入に関して、源泉徴収処理について、財務委員長より説明があり、審議の結果、当学会の規模や事情に鑑み、従来通りの対応とすることが了承された。また、状況の変化があった場合には、改めて理事会で議論することも確認された。

(4) 年次大会参加補助（スカラシップ）制度の創設について（石黒）

資料2に基づき、新設の年次大会参加補助制度が提案された。応募できる対象者の条件について、支給金額について、性質として補助なのか奨学金なのか、申請に必要な書類について、採択プロセスについて、などの議論が活発に行われた。それらの議論を踏まえて規程等書類を修正し、次回理事会にて再提案することが了承された。

(5) 『多文化関係学』投稿規程，執筆要項の改訂等について（奥西）

資料3をもとに奥西編集委員長から提案について説明があり、審議を行った。審議の結果、提案の通り修正することが承認された。

(6) 『多文化関係学』在庫の扱いについて（石黒・申）

石黒副会長より、資料4をもとに、まず在庫保管料として105,600円の請求となっている事情について説明があった。この支払いについて、了承を得た。

その状況を踏まえて、今後増え続ける在庫についての対処について審議を行い、まずは年次大会場における割引販売やワークショップ等での教科書利用、研究室や図書館への譲渡などの方法で在庫を減らすことに努める旨が合意された。NLやウェブサイト、ML等で広く会員や他学会に告知することとする。

(7) その他

他に追加の審議事項等がある場合は、理事会メールによってメール審議を行う。

*2024 年度第 1 回理事会
(後日、調整の上決定する)

以上